

学校と情報セキュリティ

2009年1月～12月 学校における個人情報漏えい事故調査結果

2010年1月18日 第一版

個人情報漏えい事故調査結果

調査年	
1月～6月	7月～8月
合計	

●個人情報漏えい事故数

2005年		2006年		2007年		2008年		2009年	
62	59	83	74	102	124	102	131	99	85
121		157		226		233		184	

●個人情報漏えい人数

2005年		2006年		2007年		2008年		2009年	
73,362	20,020	19,830	16,318	57,694	78,390	54,812	35,665	24,689	26,952
93,382		36,148		136,084		90,477		51,641	

※2008年の漏えい事故に神奈川県(11万人)は含めていません。

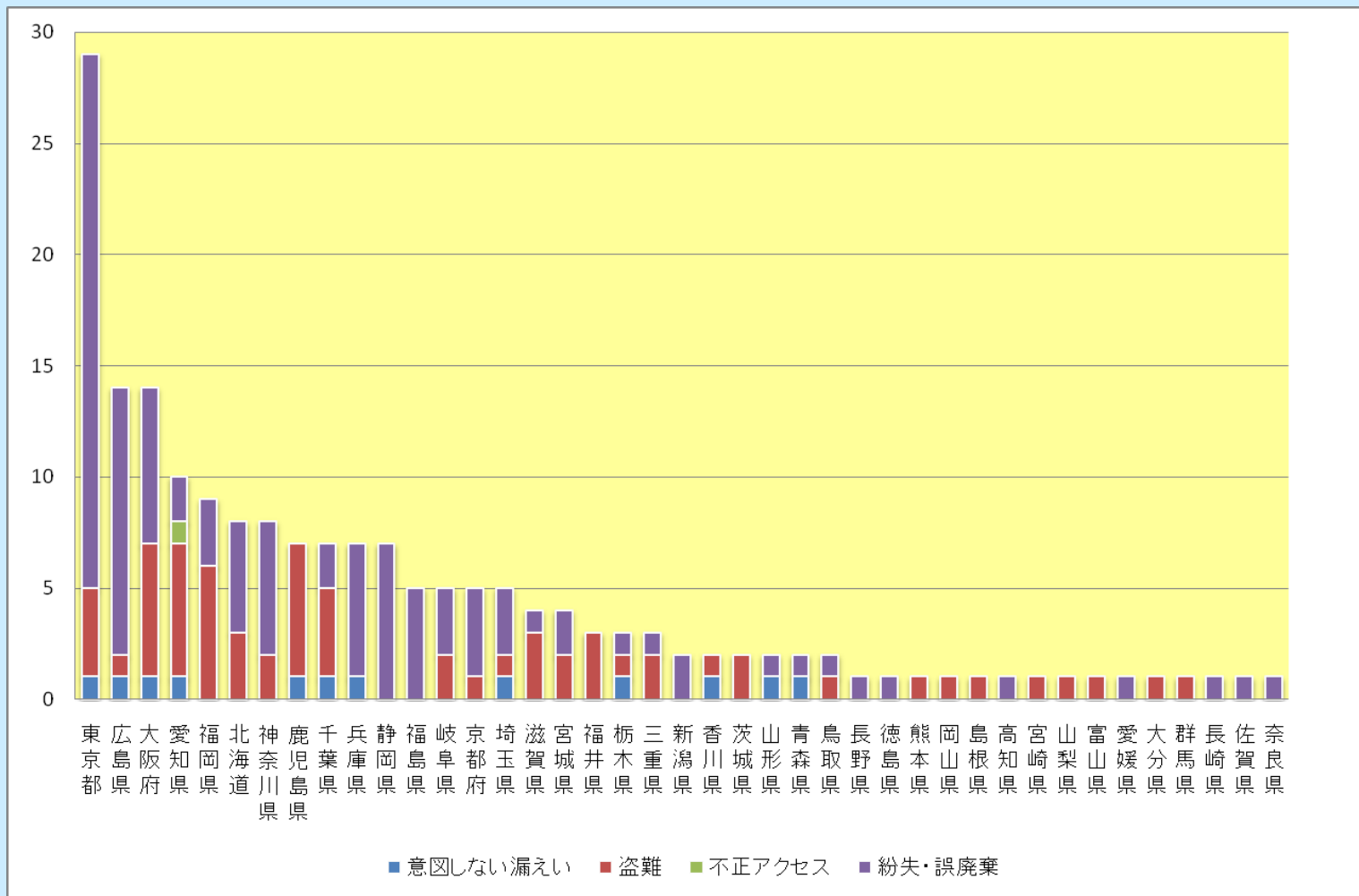
●1件あたりの平均漏えい人数

2005年		2006年		2007年		2008年		2009年	
1,287	339	249	221	566	632	537	272	249	317
772		230		602		388		281	

2005年から2009年まで、合計で約41万人分の情報が漏えいしています。
 これは、人口40-45万人都市:宇都宮市/西宮市/大分市/倉敷市/横須賀市/長崎市/岐阜市の総人口※と同数の子どもたちの情報が漏えいしたことになります。 ※平成12年度国勢調査

2005年以降、事故数が右肩上がりでしたが本年は減少しています。

県別個人情報事故数(2009年1月～12月)



情報の紛失・誤廃棄が非常に多い1年となりました。USBメモリを複数本紛失する事故も起こっています。

教育機関における県別個人情報事故数

■過去4年間の状況

2005年			2006年		
	都道府県	事故件数		都道府県	事故件数
1	静岡県	13	1	北海道	7
2	兵庫県	11	2	宮城県	6
2	北海道	11	2	大阪府	6
3	神奈川県	10	3	神奈川県	5
4	東京都	9	3	兵庫県	5
5	大阪府	4	4	和歌山県	4
5	愛知県	4	4	京都府	4
5	滋賀県	4	4	東京都	4
5	徳島県	4	5	愛知県	3
5	千葉県	4	5	福岡県	3
5	群馬県	4	5	岩手県	3

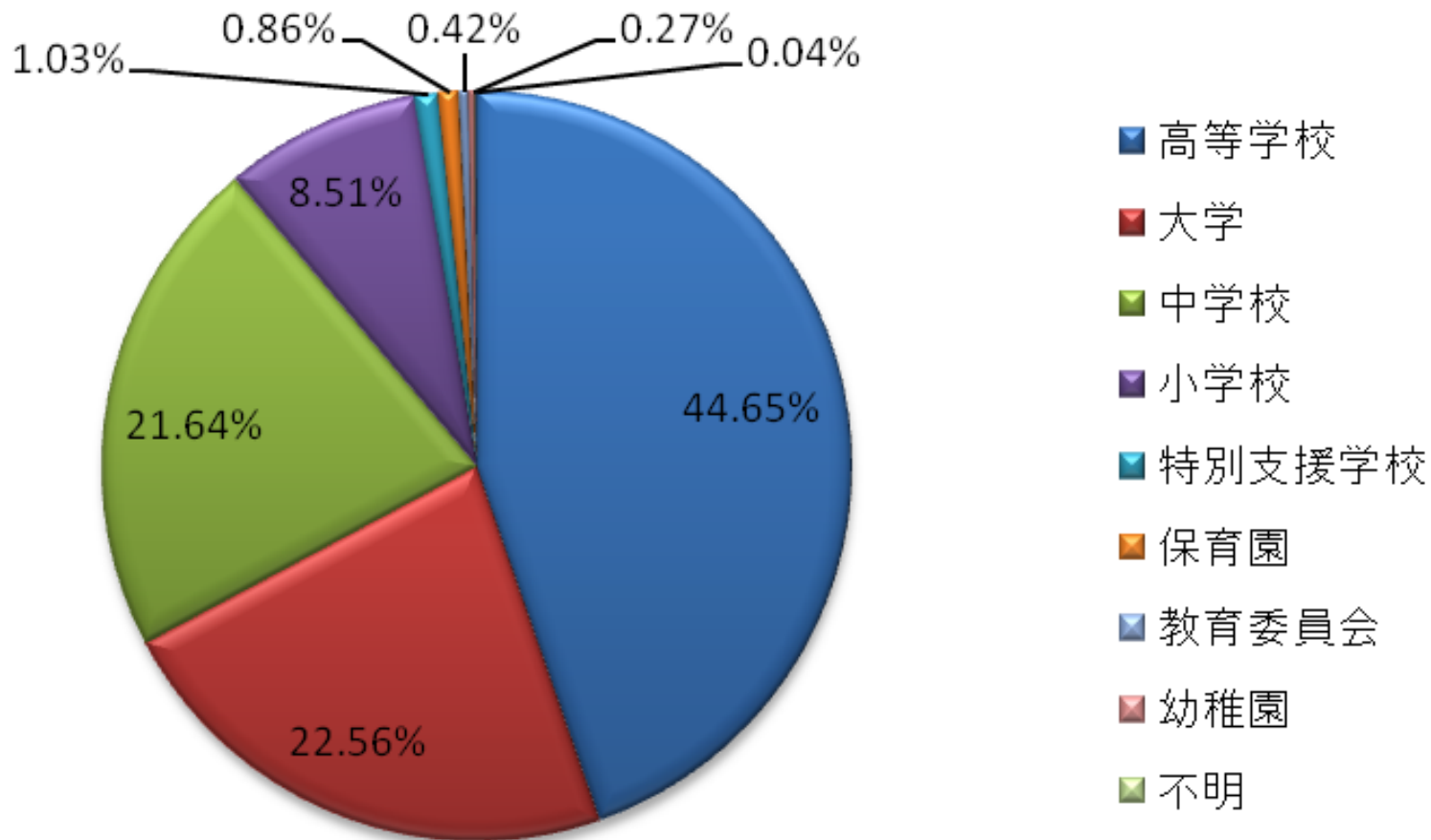
2007年			2008年		
	都道府県	事故件数		都道府県	事故件数
1	東京都	25	1	神奈川県	28
2	愛知県	21	2	東京都	27
3	福岡県	19	3	千葉県	17
4	千葉県	18	4	愛知県	14
5	埼玉県	13	5	兵庫県	13
5	神奈川県	13	6	福岡県	11
5	大阪府	13	7	北海道	10
6	静岡県	10	7	静岡県	10
6	三重県	10	8	大阪府	9
7	兵庫県	9	8	岡山県	9
7	北海道	9	9	埼玉県	8
7	福島県	9			

■本年(2009年)

2009年		
	都道府県	事故件数
1	東京都	29
2	広島県	14
2	大阪府	14
3	愛知県	10
4	福岡県	9
5	北海道	8
5	神奈川県	8
6	鹿児島県	7
6	千葉県	7
6	兵庫県	7
6	静岡県	7
7	福島県	5
7	岐阜県	5
7	京都府	5
7	埼玉県	5

上記は、表の一部を抜粋して掲載しています。
皆さんが所属する都道府県はどうでしょうか。

学校種別割合(2009年1月～12月)

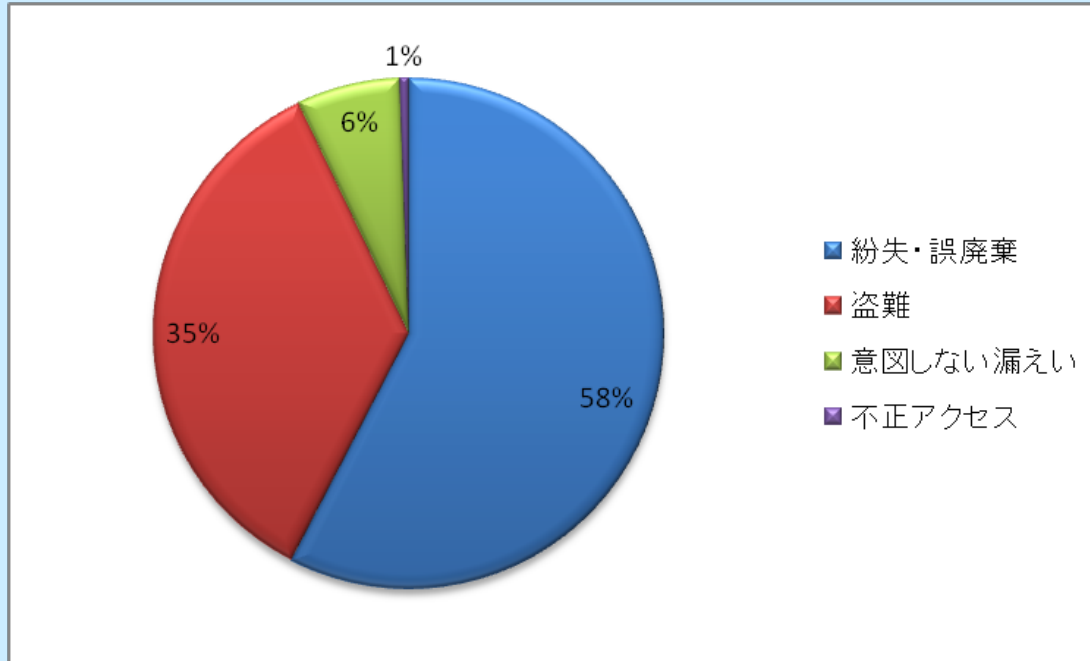


※不明とは、公立学校であることは公開されているものの
小学校・中学校・高等学校などの校種が公開されていない事故となります。

情報漏えい事故は、校種に関係なく
誰にでも起こりえる事故です。

事故別割合(2009年1月～12月)

■事故別割合



※円グラフには、幼稚園・大学など他の校種も含めています。

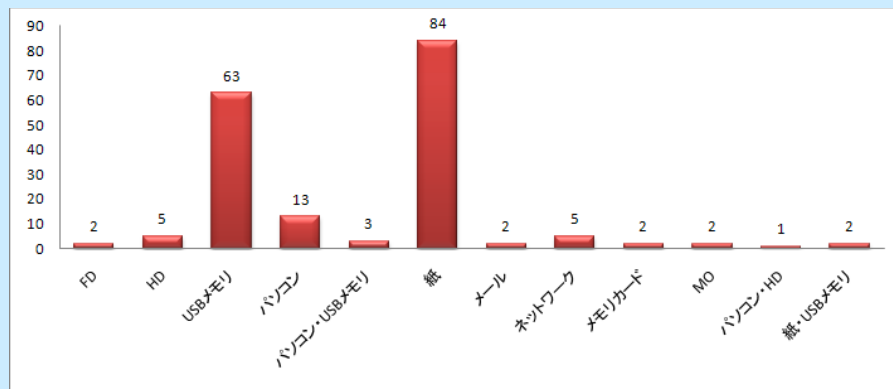
■事故原因(小・中・高校)

校種	事故別	原因	回数
小学校	紛失・誤廃棄	紛失	22
		置き忘れ	4
		誤廃棄	3
	盗難	車上荒らし	11
		置き引き	6
		ひったくり	6
		空き巣	6
	意図しない漏えい	人為的ミス	13
		ウイルス感染	4
		誤送信	2
不正な情報持ち出し	不正な情報持ち出し	1	
中学校	盗難	車上荒らし	22
		空き巣	4
		置き引き	3
	紛失・誤廃棄	紛失	15
		置き忘れ	1
	意図しない漏えい	人為的ミス	8
		ウイルス感染	3
高等学校	紛失・誤廃棄	紛失	20
		置き忘れ	4
		誤廃棄	1
	盗難	空き巣	6
		車上荒らし	6
		ひったくり	3
		置き引き	1
		窃盗	1
意図しない漏えい	人為的ミス	4	

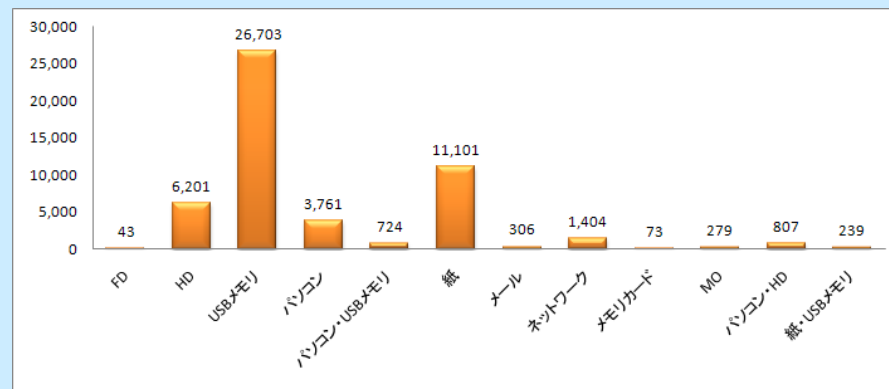
「自分には起こりえない。」「そんなつもりではなかった。」との不慮の盗難がほとんどです。

盗難・紛失媒体の状況(2009年1月～12月)

盗難・紛失した媒体



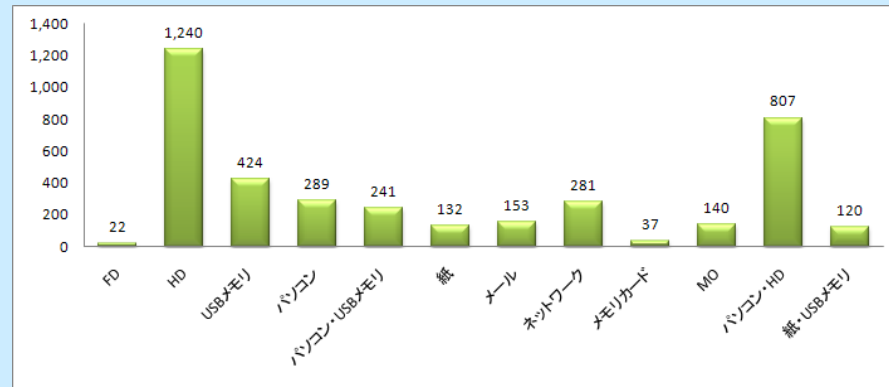
各媒体から漏えいした人数



電子媒体と紙で比較すると、
電子媒体で漏えいしたものが約98件、
紙で漏えいしたものが約84件となります。

しかし、1回の事故で漏えいする人数をしてみると、
データは紙の4倍ほどであることが分かります。

媒体別の平均漏えい人数



より安心して情報を取り扱うために

パソコン導入時は、機器構成だけではなく、
情報を守るための手段を合わせて考える必要
がある。

情報機器の管理方法だけでなく、
「紙」「データ」など情報そのものの管理を
検討しなければならない。

情報を守るのは人である。
情報を扱うユーザが、情報の大切さを理解するとともに、
教育委員会や学校が、組織として、情報セキュリティ事故
対策を考えていくことが大切である。

- なぜ情報を守るのか、どうやって情報を守るのかを利用者に理解してもらう必要があります。
- より多くの利用者が運用しやすい・分かりやすい手段で情報を守る必要があります。
- もし情報が盗まれてしまっても、情報が漏れいすることはない安心感を得ましょう。

本書は、著作権法の保護を受けています。

本書の一部あるいは全部について、引用、転載、複写を行う際は、引用元と弊社名（株式会社JMC）を明記の上ご利用ください。無断複製、転載は、著作権法の罰則の対象となることがあります。

本資料は、インターネット上の各種ニュースで掲載された「教育機関の情報セキュリティ事故^{※1} ^{※2}」を株式会社JMCが数値化した物です。発生した事故をすべて網羅してあるわけではありませんので、あらかじめご了承ください。

※1 教育機関とは、保育園・幼稚園・学童保育・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・高等専門学校・大学・教育委員会を指します。

※2 ここでまとめた情報セキュリティ事故とは、教育機関において、教職員や子どもたちの個人情報が

「意図しない漏えい」「紛失/誤廃棄」「盗難」「不正利用」された事件を指しています。

ただし、教育機関に所属する学生などによる一般市民の個人情報漏えいの事件などは含まれておりません。

教育の情報化を支援する



学ぶ、みらい、e笑顔[®]